

メロン栽培技術情報 No3

平成28年5月18日

JA大潟村営農支援課

大潟村メロン生産班

今後の管理について

本年は周期的に低温日があることから、天気予報に留意しながら以下の点に注意して管理をしてください。また、高温、晴天日が続いた場合はアブラムシ等の発生が多くなりますので早期防除を心がけてください。

防除の際はミツバチに影響の少ないモスピラン水溶剤等を使用するようにして下さい。

1. 換気・温度管理

①生育期(伸長期)…活着後は昼夜の温度管理を2～3℃下げ、軟弱伸長を防ぐ。ただし、低温期での急激な換気は、葉焼け症状の原因となるので注意する。

②開花・着果期…正常な開花・着果には最低夜温12℃が必要である。交配中は十分に換気して湿度を下げ、花粉の充実とミツバチの活動を助ける。

③肥大期…温度、湿度を高めを保ち、肥大を促進させる。

④成熟期…昼夜温の較差をつけ、糖の蓄積を促進する。

生育期別適温

生育ステージ	目標・昼間(夜間)気温	最高気温
①定植・活着期	28～30℃ (15～16℃)	32℃
②生育期	26～28℃ (13～14℃)	30℃
③開花・着果期	25～30℃ (15℃)	30℃
④肥大期	28～30℃ (15～18℃)	32℃
⑤成熟期	25℃ (15℃)	28℃

【裏ページへ】

2. アムスメロンの水分管理

①開花期（交配中）

- ・通常は灌水しない。
- ・多湿は交配・着果にマイナスとなる。
- ・この時期の水分過多は縦長果となりやすい。

②肥大期（着果確認後）

- ・最も水分を必要とする時期であり、十分に灌水する。
- ・天候に留意しながら、こまめな管理をこころがける。

③成熟期（糖度上昇期）

- ・必要最小限の灌水にとどめる。
- ・この時期の水分過多は糖度不足、登熟の遅れ、裂果・発酵果の原因となる。ただし、極度の乾燥は逆効果となる。

※防除についてはメロン栽培技術情報No2を参照して下さい。

3. 整枝と誘引

①子蔓2本仕立て1蔓2果採りを原則とする。

- ・親蔓を本葉4～5枚時に摘芯する。子蔓の本葉5～6枚展開時に整枝し、2～4節からの揃った子蔓の2本を伸ばす。
- ・株元の通風を良くするため、子蔓の本葉15枚程度展開時に、子葉と下葉4～5枚を摘除する。

②着果節位までの側枝は早めに摘除し、雌花の充実をはかる。

③草勢に応じて、11～15節に3～4果着果させ、鶏卵大の時期に形の整った2果を残して他を摘果する。着果予定枝は交配前に2節で摘芯しておく。

④着果節位より上の側枝3本程度は摘除し、それより上節位の側枝は草勢が強い場合は1節、弱い場合は2節摘芯とする。 草勢維持のため成長点を2～3残しておく。

⑤子蔓は25～28節で摘芯する。上位節で自然着果したものは摘果する。